

§はじめに

- これはオリジナルTRPG『HexCube』の拡張ルールである。
- 『HexCube』、および追加ルールの一部の使用を前提として書かれているため、それらを事前に理解しておくこと。

○コンセプト

謎のレンズ (Lenz) を体内に宿することで超人化する能力を得た人物をPCとする。

○参考文献

このルールは以下の作品を参考に作成している。

- 仮面ライダーシリーズ (特撮、原作: 石ノ森章太郎)
- 強殖装甲ガイバー (漫画、著: 高屋良樹)
- ARMS (漫画、著: 皆川亮二、原案協力: 七月鏡一)
- TABOO TATTOO (漫画、著: 真じろう)

§用語集

・レンズ[れんず]: Lenz
 人体に同化し、超人に変える能力をもつ謎の結晶体。大きさは均一ではないが、ほぼ円形で透明、望遠鏡などに使用するレンズに酷似していることから、通称「レンズ」と呼ばれる。
 レンズはほぼ透明だが、中に基盤の回路や紋章、絵、模様のようなものがうっすらと見えるものが多い。材質は不明。非常に強固な物体で、地球上の考えうる限りの手段では破壊どころか傷をつけることもできない。
 望遠鏡などのレンズ[lens]と区別するため、英語で Lenz と表記されることもある。

・外殻[がいかく]: Powered Shell
 レンズがその力を発揮する際、所持者の全身を包む用に形成される強化外皮を『外殻』と呼ぶ。

・殺人[かくじん]: Shell Person
 レンズを用いて超人的な力を発揮する姿になった状態を『殺人』、もしくは『シェル・パーソン』と呼ぶ。これはレンズに共通の形成能力によって外殻を纏うところからきている。

・レンズの発現位置[れんずのはつげんいち]: Lenz Position
 肉体に同化したレンズは、その力を発揮する際、身体の特定の場所に出現する。現在、確認されているのは、額、胸、鳩尾(みぞおち)、臍(へそ)、右手甲、左手甲の6箇所。

・適合者[てきごうしゃ]: Proper
 レンズは自らの性質に適合する者のみが使用でき、その者を「適合者」と呼ぶ。適合者でない者がレンズに触れても何も起さない。逆に適合者がレンズに触れると、レンズは適合者の体に同化する。レンズは適合者に、適合者はレンズに引き寄せられる性質があり、無意識の内にレンズを宿している場合もある。

・生体融合[せいたいゆうごう]: Bio-Fusion
 レンズが適合者の体内に溶け込むように入る現象のこと。

・強化能力[きょうかのうりよく]: Boosted Ability
 纏った外殻によってもたらされる身体強化能力の総称。

・変身[へんしん]: Metamorphosis
 レンズを発現させ、形成された外殻を纏う行動。

・フォームチェンジ[ふぉーむちえんじ]: Form Change
 複数のレンズを所持している場合に、使用するレンズを切り替える行動。

・競技能力[かくぎのうりよく]: Control Ability
 レンズが内包する特殊能力の総称。人体に融合したレンズは、自分の持つ競技能力の情報を融合者の記憶野に書き込む。そのため、融合直後からその能力を使いこなすことができる。

・量産型レンズ[りょうさんかたれんず]: Mass Production Lenz
 生体融合するレンズの能力を人工的に再現した量産品。その能力は生体融合するレンズよりは劣る。生体融合するレンズと区別するため、『量産型レンズ』と呼ばれる。以下、ルール上は『MPL』と記述する。

・発掘品レンズ[はくつひんれんず]: Excavation Product Lenz
 MPLの開発により、生体融合するレンズは『発掘品レンズ』と呼ばれるようになった。以下、ルール上は『EPL』と記述する。

・シングルフォーム[しんぐるふぉーむ]: Single Form
 EPLを1枚だけ使用して変身した形態を「シングルフォーム」と呼ぶ。

・ダブルフォーム[だぶるふぉーむ]: Double Form
 EPLを2枚使用して変身した形態を「ダブルフォーム」と呼ぶ。

・トリプルフォーム[とりぶるふぉーむ]: Triple Form
 EPLを3枚使用して変身した形態を「トリプルフォーム」と呼ぶ。

・コンポジットフォーム[こんぽじつふぉーむ]: Composite Form
 複数のEPLを同時に使用して変身した形態を「コンポジットフォーム」と呼ぶ。

・フォームタイプ[ふぉーむたいぷ]: Form Type
 レンズの発現位置によって形成される外殻の性質を表す。その性質毎に名前があり「タイプ〇〇〇」と表記する。

・レンズドライバー[れんずどらいいー]: Lenz Driver
 適合者でなくても生体融合なしにレンズの力を引き出すことに成功したバックル型の器具。EPLも使用可能だが、その能力使用は限定的となる。レンズドライバーは以下のパーツで構成されている。

- ①バックル
 レンズを入れるスロットと各種スイッチを持つドライバーの中核部品。
- ②ベルト
 特殊繊維のベルトで、通常の刃物では切断できない。
- ③レンズスロット
 レンズを差し込むと中でロックされる。レンズを内側に押し込むことでロックが外れ、レンズを取り出すことができる。
- ④起動スイッチ
 これを押すことで変身できるため、「変身スイッチ」ともいう。レンズが全てスロットに入っていないと押せない。
- ⑤オーバードライブスイッチ
 レンズのオーバードライブ機能を起動するスイッチ。スロット毎に1つある。
- ⑥レンズホルダー
 レンズを6枚まで収納できるケース。ベルト部分に付属し、好みに合わせてその位置を横や後ろに変更できる。

・ドライバーズウィisper[どらいいーびーずういすぱー]: Driver's Whisper
 レンズドライバーを操作した際に発せられる合成音声。ドライバーが故障、異常な状態、レンズから力を引き出せない状態等で操作すると耳障りなブザー音とともに「Error!」と発せられる。

・ウェポンドライバー[うえぼんどらいいー]: Weapon Driver
 武器にレンズドライバーとしての機能を組み込んだもの。刀剣型、拳銃型、可変型の3種類が存在する。その構造上、類似する武器よりも一回り以上大きくなっているため、カバンなどに入れない場合は隠し持つことができな。

・オーバーブースト[おーばーぶースと]: Overboost
 ・オーバードライブ[おーばーどらいいー]: Overdrive
 レンズが適合者から生命力を吸い上げること、通常よりもはるかに高い能力を発揮する現象。適合者の意思でこの現象を発生させることが可能。主に攻撃手段の強化とし

て使用されることが多い。EPLでは「オーバーブースト」、レンズドライバーでは「オーバードライブ」と呼ばれるが、基本的な効果は同じである。

§世界観

ここではレンズとそれにかかわる世界や人物について説明する。プレイヤーは以下を讀んだ上でキャラクターの作成に入ることが望ましい。

○レンズ研究機関『LIBRARY』

- 正式名称「超人化結晶研究統合機関」。
- 政府や財閥の支援を受けているが、公には存在しない秘密組織である。
- その設備自体が一般開放された図書館を併設していることから、隠語としての意味を含め、通称「ライブラリー」と呼ばれている。
- ライブラリーに所属する研究員は、表向きには図書館の職員となっている。
- 本部の所在は不明だが、世界各地に支部を持つ。

○レンズの発見

- レンズは、とある遺跡の中で大量に発見された。
- これは密かに世界各地で発見されており、その総数は1000枚を超える。
- 発掘品として報道がされないのは、ライブラリーによる情報管制のためである。
- 一度、輸送中の事故で大量に紛失している。

○レンズの利用

- レンズは当初、適合者以外には使用できなかった。
- 研究の結果、ライブラリーにおいてレンズの能力を人工的に引き出す装置「レンズドライバー」の開発に成功する。
- レンズの構造を解析することで、擬似的にその能力を再現できる「量産型レンズ」の開発にも成功した。

○舞台設定『某市立図書館』

ここではライブラリーの拠点となっている図書館の1つについて説明する。GMは以下の設定を自由にアレンジしてシナリオの舞台としてよい。

- 1) 一般区画
 ・表向きは地上2階と地下1階(閲覧フロア)、地下2~3階(倉庫フロア)に分かれている。
 ・二次元バーコードによる書籍管理がされている。
 ・コンピュータ連動の自動書庫が設置されている。地下2~3階は自動倉庫となっており、そのフレームやリフトがあるため、整備スペース以外に人間が立ち入れる空間はほとんどない。
 ・エレベーターは人間用が1機。搬入用の大型が1機存在する。搬入用は2トントラックが入れるほど大きい。
- 2) 隠蔽区画
 ・ライブラリーの研究員のみが知っている手順でエレベーターのボタンを押すと、地下4~6階に移動できる(搬入用エレベーターも同じ)。これは単純なパスワード方式ではなく、エレベーター内の監視カメラに顔を向け、虹彩認証も必要となっている。
 ・地下4階は研究スペース。レンズによる研修施設その他、図書館全体の監視システムもある。仮眠室(簡易キッチン、シャワールーム有)もあり、研究員の寝泊りが可能。
 ・地下5階は実験スペース。見た目は天井がちょっと高いフロアだが、フロアの厚みとしては4階の3倍もある。主にレンズの能力を検証するためのシェルターとなっており。このフロアにも4階と同様の仮眠室がある。また、地下排水溝への非常出口も存在する。
 ・地下6階は倉庫と発電設備がある。発電設備は主に4階の研究設備用だが、非常時には外部送電なしでもシェルターとして機能できるようにになっている。

○サンプルNPC

公には前述の某市立図書館に勤務し、実質的にはライブラリーの研究員であるNPCを紹介する。GMは以下の設定を自由にアレンジしてよい。

- 1) 館長「四条 武山(しじょう たけやま)」/♂
 ・元物理学者。
 ・10年以上前、発表した論文が学会で徹底的に非難され、追放された過去を持つ。
 ・追放後、ライブラリーのエージェントと接触し、レンズドライバーの初期開発に参加。レンズの力を引き出す中枢回路、および複数のレンズのエネルギーを制御する統合回路を設計し、実用化することに成功した天才である。
 ・図書館の館長としては、親しみやすい雰囲気のある老人だが、研究作業中は性格が豹変する。
- 2) 助手「四条 要(しじょう かなめ)」/♀
 ・見た目は中学生とも思えるような低身長(145cm)の女性。
 ・メガネをかけ、長い黒髪を首の後ろで束ねている。
 ・館長「四条 武山」の姪という立場を表明しているが、詳細は不明。
 ・普段は明るく元気いっぱい少女という雰囲気だが、年齢やそれに関する質問をすらすらと性格が豹変して許容ハードカパーの本を投擲し、それ以上質問させないように行動を封じる癖がある。そのため、彼女の前で年齢の話をするのはタブーである。
 ・館長の助手という立場だが、実際にはMPLの作成に携わっていた天才科学者の一人である。そのため、ライブラリーの中でも絶大な発言力を持ち、EPLにはない能力を持った新型のMPLを次々に開発している。
 ・「ですー」、「なの一」、「はーい」といった語尾に長音記号を多用するしゃべり方をする。
- 3) 司書「レイチエル・葉沢(れいちえる・はざわ)」/♀
 ・日英ハーフ。日/英/仏語を使いこなすトライリンガル。金髪碧眼。
 ・そのモデルのような体形を維持するためにスポーツジムに毎日通っている。
 ・親の影響で合気道の達人。
 ・ライブラリーの研究員とエージェントを兼務している。そのため「出張」と称して図書館にないことがよくある。
 ・専用レンズドライバーとバイクを所持している。
 ・主に部下となるPCに、エージェントとしての仕事を指示する上司となる。
 ・彼女は「この座標に来るように」と、緯度経度座標をメールで送る呼び出し方をする癖がある。
- 4) 運送屋「向井 治(むかい おさむ)」/♂
 ・ライブラリーのエージェント。
 ・主に輸送を担当しており、図書館に常駐しているわけではない。
 ・表向きは図書館用の書籍の移動を行っており、その外見や使用している車両は運送業者に偽装されている。
 ・レンズ適合者。
 ・ライブラリーのエージェントに命を救われた過去があり、それ以来、ライブラリーには忠実である。
 ・レイチエルとつき合っている。
- 5) アルバイト「向井 直海(むかい なおみ)」/♀
 ・「向井 治」の妹。
 ・普通の大学生でありライブラリーもレンズのことも何も知らない。
 ・いわゆる「一般人」であり、上記4人のことは表向きのことしか知らない。

○PCの立ち位置

上記の図書館の設定を使用する場合、PCの立ち位置は以下から選択する。

- 1) レンズ適合者
 表向きは図書館の職員、もしくはアルバイトとして生活。ライブラリーからの指示でエージェントとして行動する。レンズの入手とライブラリーへのかかわりは自由に設定してよい。
- 2) ドライバー所持者
 表向きは図書館の職員、もしくはアルバイトとして生活。ライブラリーからの指示でエージェントとして行動する。
- 3) 研究員
 表向きは図書館の職員だが、実際にはライブラリーの研究員である。レンズ適合者、ドライバー所持者のどちらでもよい。